

## 職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地		
神戸電子専門学校		昭和51年4月1日	福岡 壯治		〒650-0003 兵庫県神戸市中央区山本通1丁目6番35号 (電話) 078-242-0014		
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地		
学校法人 コンピュータ総合学園		昭和52年2月28日	福岡 富雄		〒650-0003 兵庫県神戸市中央区山本通1丁目6番35号 (電話) 078-242-0014		
目的	本学科は、高等学校を卒業した者又は高等学校卒業と同等の学力があると認められる者で、情報処理分野での活躍を目指す志望者に専門教育を行い、システム構築プロジェクトの中で活躍できるITエンジニアを育成することを目的とする。						
分野	課程名		学科名		専門士		高度専門士
工業	工業専門課程		ITスペシャリスト学科		平成7年文部省告示第7号 平成19年文部科学省告示第21号		—
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	2754	1411	612	2839	0	0
単位時間							
生徒総定員		生徒実員		専任教員数	兼任教員数		総教員数
210人		195人		11人	9人		20人
学期制度	<b>■前期：4月1日～10月14日</b> <b>■後期：10月15日～3月31日</b>			成績評価	<b>■成績表：有</b> <b>■成績評価の基準・方法</b> 各期末の成績評価において、80点以上を5、60点以上80点未満を4、40点以上60点未満を3、20点以上40点未満を2、20点未満を1とする。 成績評価は試験、平常評価、レポート、実習課題、合評審査により行う。		
長期休み	<b>■夏季：7月20日～8月31日</b> <b>■冬季：12月20日～1月7日</b> <b>■春季：3月20日～4月10日</b>			卒業・進級条件	進級条件： 学科の教育課程に定められた必修科目(選択必修科目を含む)のうち、当該年次で履修しなければならない科目を修得(成績評価3以上)し、かつ年間の出席率80%以上の者。 卒業条件： 学科の教育課程に定められた必修科目(選択必修科目を含む)のうち、卒業までに履修しなければならない科目を修得(成績評価3以上)し、かつ各年次の出席率80%以上の者。		
生徒指導	<b>■クラス担任制：有</b> <b>■長期欠席者への指導等の対応</b> 家庭訪問、保護者への電話連絡、保護者への定期的な欠席状況連絡			課外活動	<b>■課外活動の種類</b> インターンシップ  <b>■サークル活動：有</b>		

就職等の 状況	<b>■主な就職先、業界等</b> 情報処理業界（システムエンジニア・プログラマ） ・株式会社MDロジスシステムソリューションズ ・株式会社高砂コンピューターサービス ・大津コンピュータ株式会社 ・株式会社ミックウェア	データベーススペシャリスト試験 応用情報技術者試験 基本情報技術者試験 情報検定 情報処理技術者能力認定試験 C言語プログラミング能力認定試験
	<b>■就職率</b> <sup>※1</sup> : 100 %	
	<b>■卒業者に占める就職者の割合</b> <sup>※2</sup> : 98.57 %	
	<b>■その他</b>  （平成 27 年度卒業者に関する平成28年5月1日 時点の情報）	
中途退学 の現状	<b>■中途退学者</b> 10 名 平成27年4月1日 在学者 225 名（平成27年4月1日 入学者を含む） 平成28年3月31日 在学者 215 名（平成28年3月31日 卒業者を含む）	<b>■中退率</b> 4.4 %
	<b>■中途退学の主な理由</b> 経済的理由，進路変更，健康理由	
	<b>■中退防止のための取組</b> 担任を中心に，退学防止に向けた相談・指導を行っている。更にカウンセラーによるカウンセリングにより，特に精神面において問題のある学生に対する相談を行っている。 経済面に対しては，学費や奨学金相談の窓口を設け，対応できるようにしている。	
ホームページ	URL: <a href="http://www.kobedenshi.ac.jp">http://www.kobedenshi.ac.jp</a>	

※1「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」の定義による。

①「就職率」については，就職希望者に占める就職者の割合をいい，調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとす。

②「就職率」における「就職者」とは，正規の職員（1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいう。

③「就職率」における「就職希望者」とは，卒業年度中に就職活動を行い，大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい，卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

（「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は，卒業年次に在籍している学生等としている。ただし，卒業の見込みのない者，休学中の者，留学生，聴講生，科目等履修生，研究生及び夜間部，医学科，歯学科，獣医学科，大学院，専攻科，別科の学生は除いている。）

※2「学校基本調査」の定義による。

全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料，賃金，報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが，家事手伝い，臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。）

## 1. 教育課程の編成

### (教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

本学科における実践的かつ専門的な職業教育を実施するために、企業等との連携を通じて必要な情報の把握・分析を行い、教育課程（カリキュラム）の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善等を含む）に活かすことを目的に、教育課程編成委員会（以下委員会という）を設置する。

委員会は、業界における人材の専門性の動向、国又は地域の産業振興の方向性、実務に必要な最新の知識・技術・技能、その他教育課程の編成に関する事項を審議する。

委員会の委員は校長及び校長が指名する教職員の他、専攻分野に関する企業等の役職員から広く選任するものとし、少なくとも以下の①または②から1名、③から1名を委員に加えることとする。

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員。

②専攻分野に関する学会や学術機関等の有識者。

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員。

委員の任期は1年とする。但し再任を妨げない。

委員会の委員長は校長または校長が指名する教職員とし、委員会の会務を総理する。

委員会の実施結果については学校側委員および関連教職員により検討を行い、実践的かつ専門的な職業教育を実施するために必要な教育課程の編成に活用する。

### (教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成27年5月1日現在

名 前	所 属
山本 裕計	地域ICT推進協議会
渡辺 淳	株式会社ブルーオーキッドコンサルティング
井垣 敏彦	株式会社KYOSO
福田 将宏	株式会社ミックウェア
福岡 壯治	神戸電子専門学校
遠藤 洋次	神戸電子専門学校
高橋 保司	神戸電子専門学校
岡 晋一	神戸電子専門学校
三輪 明義	神戸電子専門学校
山口 あかね	神戸電子専門学校
児玉 真悟	神戸電子専門学校

### (開催日時)

平成27年度第1回 平成27年 5月12日 15:00～16:05

平成27年度第2回 平成27年 7月30日 13:45～15:00

平成27年度第3回 平成28年 2月 9日 17:10～18:25

## 2. 主な実習・演習等

### (実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

企業等の要請等を十分に生かしつつ、本学科の専攻分野に関する職業に必要となる実践的かつ専門的な能力を育成することを目的に、企業等と連携して実習・演習の授業を行う。

実施に当たっては連携する企業との間に、実習・演習の実施、実習・演習用教材の作成、実務的能力評価に関する補助等について協定書（業務委託契約）を締結する。

実習・演習は教育課程編成委員会の結果を活用して編成された教育課程に対して、職業実践的能力を修得するための実習・演習の内容や方法検討、実施、修得した実践的能力の評価等について企業等と連携して行う。

実習・演習の実施は連携する企業等から派遣された講師、または実施方法等について企業等との連携の上で本校教員が行う。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
キャリアデザインⅡ	就職先である情報処理業界で必要とされるプレゼンテーション力・コミュニケーション力を習得する。他の技術科目と連携した題材による実習や発表を行い、実践力を養う。	アソシエイト・ゆう
データベース技術	リレーショナルデータベースの設計と実装技術を習得する。	株式会社ミックウェア
Linux I	Linuxのインストール、環境設定、コマンド操作を通じLinuxの基礎を習得する。	株式会社ラック

Linux II	DNS, メール, Webサーバ等のセキュアな構築と運用技術を習得する。	株式会社ラック
プロジェクト管理	グループによるプロジェクトを進めながら、その管理手法を習得する。	株式会社ブルーオーキッドコンサルティング

### 3. 教員の研修等

#### (教員の研修等の基本方針)

神戸電子専門学校教職員は業務上の能力開発, 資質の向上等に関し組織的に研修に取り組む。  
 教員は職業専門教育を実践するFD (ファカルティデベロップメント) を主題とし, 専門的技術力 (専攻分野における実務に関する知識, 技術, 技能) の向上, および教育力 (授業および学生に対する指導力) 向上等を目的として実施する。

- ・学校全体研修は全教職員を対象とし, 年間1~2回の研修を実施する。
- ・部署別研修は部署教職員を対象とし, 任意の研修を実施する。
- ・個人研修は所属部門長の指示により, 任意の研修を実施する。

教職員の資質向上および教育の質保証のために, 積極的に外部の研修へ参加を奨励する。  
 一部の者が参加する外部研修の結果等については, 必要に応じ関連学科・部署または教員全体への報告会等を開催し共有を図る。

### 4. 学校関係者評価

#### (学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成27年5月1日現在

名 前	所 属
永吉 一郎	地域ICT推進協議会
網本 雅生	NPO法人神戸デザイン協会
横山 剛	株式会社SRC

#### (学校関係者評価結果の公表方法)

URL: <http://www.kobedenshi.ac.jp> (学校ホームページにて公表)

### 5. 情報提供

#### (情報提供の方法)

URL: <http://www.kobedenshi.ac.jp> (学校ホームページにて情報提供)

授業科目等の概要

(工業専門課程 ITスペシャリスト学科) 平成27年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			キャリアデザイン I	自分の将来の進路について考え、目標を達成するために必要な準備・対策に取り組む。	1通	68		△	△	○	○			○	
○			キャリアデザイン	社会人基礎力を養成し、学生全体の就業力アップを目指す。	1通	34		○			○		○		
○			処理演習	基本情報を始めとする情報処理技術者試験や各種検定等の資格取得を目指して問題演習を行う。	1通	170		△	○		○		○		
○			ICT概論	ICT全般にわたる基礎知識を習得し、情報処理技術者試験の合格を目指す。	1前	153		○	△		○		○		
○			アルゴリズム	プログラム作成に必要な基本アルゴリズムを流れ図や疑似言語を使って習得する。	1前	34		○	△		○		○		
○			プログラミング I	基本情報技術者試験で出題されるCASL IIを学習し、アセンブラ言語の基礎を学ぶ。	1前	68		○	△	△	○		○		
○			C言語 I	C言語に関する基礎知識を習得し、基本的なプログラムを作成する。	1前	85		○		△	○		○		
○			アプリケーション	Officeアプリケーションの活用技術を習得する。	1前	51		△	△	○	○		○		
○			ICT特論	ICT概論をベースに、高度IT人材になるための応用的なICT技術を理解する。	1後	85		○	△		○		○		
○			プログラム設計演習	流れ図、デシジョンテーブルなどを使用しプログラムの設計を行う。	1後	85		○	△	△	○		○		
○			C言語 II	C言語の機能をフルに使った小規模なプログラムを作成する。	1後	85		○		△	○		○		
○			資格対策 I	情報処理技術者試験の合格を目指した対策授業を行う。	1後	68		△	○		○		○		
○			プログラミング II	C言語等のプログラム言語を使いグループによるソフトウェア開発を行う。	1後	68		△		○	○		○		

○		キャリアデザインⅡ	就職先である情報処理業界で必要とされるプレゼンテーション力・コミュニケーション力を習得する。他の技術科目と連携した題材による実習や発表を行い、実践力を養う。	2通	68		△	△	○	○					○	○
	○	Visual Basic	自分で使える簡単なアプリケーションを開発するための学習を行う。課題の演習だけでなく、自分で自由なアプリケーションの作成も行う。JavaのGUIプログラミングの理解をしやすいするための意味合いもある。	2通	68		△	△	○	○					○	
	○	データベース設計	データベース理論、データベース設計（概念設計・論理設計・物理設計）について学習し、実習を通して習得する。	2通	68		△	△	○	○					○	
○		Linux I	Linuxのインストール、環境設定、コマンド操作を通じLinuxの基礎を習得する。	2前	85		○	△	△	○					○	
○		ネットワーク技術	TCP/IPアプリケーションプログラムの作成によりネットワークプロトコルの仕組みを習得する。	2前	85		○	△	△	○					○	
	○	Java I	Javaを使ったオブジェクト指向プログラミングの基礎を習得する。	2前	85		○		△	○					○	
	○	資格対策Ⅱ	専攻別に定めた資格取得を目指した問題演習授業を行う。	2前	68		△	○		○					○	
○		LinuxⅡ	DNS、メール、Webサーバ等のセキュアな構築と運用技術を習得する。	2後	85		△	△	○	○						○
○		データベース技術	リレーショナルデータベースの設計と実装技術を習得する。	2後	85		○	△	△	○					○	○
	○	JavaⅡ	Javaを使ったGUIプログラムを作成する。	2後	85		△		○	○					○	
	○	資格対策Ⅲ	専攻別に定めた資格取得を目指した問題演習授業を行う。	2後	68		△	○		○					○	
	○	ネットワーク構築Ⅰ	Linuxを用いたサーバ構築の前段階として、仮想マシンでの複数サーバ構築の基礎的な技法を実習を通じて習得する。利用するサーバはWebサーバとその周辺とする。	2前	68		△	△	○	○					○	
	○	ネットワーク構築Ⅱ	ネットワーク構築Ⅰを基礎とし、複数サーバ連携の環境を構築・テストなどを実習を通じて習得する。	2後	68		△	△	○	○					○	
	○	企画演習	事例学習等を通じ、WEBサービス作成に必要な企画力を学ぶ	2後	68		△	○	△	○					○	
	○	プログラミングⅢ	Rubyを用いてプログラミングを学ぶ	2前	85		△		○	○					○	
	○	作品制作Ⅰ	Webアプリの作成を行う	2前	102		△		○	○					○	

○	○	プログラミングⅣ	Ruby on Railsを用いてWebプログラミングを学ぶ	2後	85		△		○	○					○
○	○	作品制作Ⅱ	Webサービスの作成を行う	2後	102		△		○	○					○
○	○	アプリケーションⅠ	VBA (Excel, Access) を使った簡単なアプリケーションを開発する。	2前	85		△	△	○	○					○
○	○	プレゼンテーション技法	パワーポイントを使いさまざまなテーマに沿った内容のものを作成し、発表を行う。自分が作成した内容を単に読み上げるのではなく、聞き手に理解、納得してもらうことを目標とする。	2前	68		△	△	○	○					○
○	○	アプリケーションⅡ	VBA (Excel, Access) を使ったアプリケーションを開発する。	2後	85		△	△	○	○					○
○	○	ドキュメント技法	IT技術者に必要な各種ドキュメント技法を習得する。	2後	68		△	△	○	○					○
○	○	プロジェクト管理	グループによるプロジェクトを進めながら、その管理手法を習得する。	3通	170		△	○	△	○					○
○	○	Webアプリケーション開発	HTML5・JavaScript・CSS3を使ったWebサイトの構築を行う。	3前	102		△	△	○	○					○
○	○	システム設計Ⅰ	UMLの表記法とモデリングの基礎知識を習得する。	3前	102		○	△	△	○					○
○	○	Webプログラミング	Java、ネットワーク、データベースを利用したWebアプリケーション作成技術を習得する。	3前	68		△	△	○	○					○
○	○	システム設計特論Ⅰ	システム開発対象のうち、Webアプリケーションシステムに絞り、その開発方法・Webデザイン技法を習得する。	3前	68		△	△	○	○					○
○	○	システム開発演習	Java、ネットワーク、データベースを利用したWebアプリケーションを作成する。	3後	102		△	△	○	○					○
○	○	システム設計Ⅱ	①UMLモデリングを使ってシステム設計を行う。 ②アジャイル開発（スクラム）の基本技術を習得する。	3後	102		△	△	○	○					○
○	○	スマートフォンアプリ開発	スマートフォンを有効に活用するアプリケーションの開発を行う。アイデアを考え、開発に必要な知識・技術を自分で取得できる力を身につける。	3後	68		△	△	○	○					○
○	○	システム設計特論Ⅱ	①UMLモデリングの詳細技術や応用技術を習得する。 ②アジャイル開発（スクラム）の詳細技術や応用技術を習得する。	3後	68		△	△	○	○					○
○	○	アプリケーションサーバ構築Ⅰ	CGIやRuby、Pythonベースのアプリケーションサーバを構築し、サーバサイドプログラミングについて実習を通じて習得する。	3前	68		△	△	○	○					○
○	○	セキュリティ特論	情報セキュリティ保護上の知識や心得、セキュリティホールの種類、攻撃に対する防御方法を学ぶ。	3前	68		○	△	○						○

○	アプリケーションサーバ構築Ⅱ	前期のアプリケーションサーバ構築Ⅰをベースとして、リモートサーバで実際に公開するための技術を実習を通じて習得する。	3後	68		△	△	○	○		○	
○	セキュアプログラミング	Webアプリケーションで陥りがちなセキュリティ上の問題を、スクリプト言語を使用して学ぶ。	3後	68		△	△	○	○			○
○	Webサイト制作Ⅰ	Webシステム開発のための、総合的な制作実習を行う	3前	238		△	△	○	○			○
○	Webサイト制作Ⅱ	Webシステム開発のための、総合的な制作実習を行う	3後	238		△	△	○	○			○
○	アプリケーションⅢ	VBA (Excel, Access) を使った小規模な業務システムを開発する。	3前	102		△	△	○	○			○
○	情報セキュリティマネジメント	ISMSに準拠したリスクマネジメントの一連の流れを理解し、セキュリティポリシーが設定できることを目指す。	3前	68		○	△		○			○
○	ITサービスマネジメントⅠ	ITサービスマネジメントに関する成功事例が集約されているITILの概要を学習する。	3前	68		○	△		○			○
○	アプリケーションⅣ	VBA (Excel, Access) を使った業務システムを開発する。	3後	102		△	△	○	○			○
○	IT法規	ITに関する各種法律・制度を学習し、事例を通して理解を深める。	3後	68		○	△		○			○
○	ITサービスマネジメントⅡ	ITサービス運用における知識やノウハウを蓄え理解を深める。	3後	68		○	△		○			○
合計			56 科目		4862 単位時間( 単位)							

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
<p><b>卒業要件</b> 各年次の進級要件を満たした者で、学科の教育課程に定められた必修科目（選択必修科目を含む）のうち、卒業までに履修しなければならない科目を修得（成績評価3以上）し、かつ各年次の出席率80%以上の者。</p> <p><b>進級要件</b> 学科の教育課程に定められた必修科目（選択必修科目を含む）のうち、当該年次で履修しなければならない科目を修得（成績評価3以上）し、かつ年間の出席率80%以上の者。</p> <p><b>成績評価について</b> 各期末の成績評価(100点満点)において、80点以上を5、60点以上80点未満を4、40点以上60点未満を3、20点以上40点未満を2、20点未満を1とする。成績評価は試験、平常評価、レポート、実習課題、合評審査により行う。</p> <p><b>履修方法および総授業時間数の計算方法</b> 1年次、全科目必修（1054時間） 2年次 ・必修科目（合計408時間） ・選択必修科目は下記いずれかの組み合わせ1つ（各442時間）を選択する 選択1（Visual Basic・データベース技術・Java I・Java II・資格対策Ⅱ・資格対策Ⅲ） 選択2（ネットワーク構築Ⅰ・ネットワーク構築Ⅱ・Java I・Java II・資格対策Ⅱ・資格対策Ⅲ）</p>	1 学年の学期区分	2 期



<p>           選択3（企画演習・プログラミングⅢ・作品制作Ⅰ・プログラミングⅣ・作品制作Ⅱ）            選択4（アプリケーションⅠ・プレゼンテーション技法・アプリケーションⅡ・ドキュメント技法・資格対策Ⅱ・資格対策Ⅲ）            ・2年次修了に必要な授業時間は必修科目408時間＋選択必修科目442時間＝合計850時間            3年次            ・必修科目（合計374時間）            ・選択必修科目は下記いずれかの組み合わせ1つ（各476時間）を選択する            選択1（Webアプリケーション開発、システム設計特論Ⅰ、Webプログラミング、システム開発演習、スマートフォンアプリ開発、システム設計特論Ⅱ）            選択2（Webアプリケーション開発、アプリケーションサーバ構築Ⅰ、セキュリティ特論、システム開発演習、アプリケーションサーバ構築Ⅱ、セキュアプログラミング）            選択3（Webサイト制作Ⅰ、Webサイト制作Ⅱ）            選択4（・アプリケーションⅢ、情報セキュリティマネジメント、ITサービスマネジメントⅠ、アプリケーションⅣ、IT法規、ITサービスマネジメントⅡ）            ・3年次修了に必要な授業時間は必修科目374時間＋選択必修科目476時間＝合計850時間            学科の修了に必要な授業時間は1年次1054時間＋2年次850時間＋3年次850時間＝合計2754時間         </p>	<p>1学期の授業期間</p>	<p>17週</p>
---	-----------------	------------

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。